

## 6-2 次代を担うグローバル人材の育成

### 留学・海外交流の促進

施策	6-2 (1) 留学・海外交流の促進	担当部局	スポーツ・文化観光部 大学課 教育委員会 教育政策課、高校教育課
----	-----------------------	------	-------------------------------------

これから、政策6-2、次代を担うグローバル人材の育成、施策(1)留学・海外交流の促進について説明します。

お手元に施策調書を御用意して視聴をお願いします。

まず1ページを御覧ください。

◆ 目 標

- 海外に留学する大学生や高校生を増やすとともに、外国人留学生の受入れを増やし、海外交流を促進します。

◆ 施策に関する指標

成果指標	現状値	目標値
県内高等教育機関から海外への留学生数	(2020年度) 19人	1,000人
外国人留学生数	(2020年度) 3,939人	5,000人

留学・海外交流の促進

活動指標	現状値	目標値
ふじのくにグローバル人材育成基金による海外交流者数	(2017～2020年度) 累計 688人	(2022～2025年度) 累計 1,000人
海外教育機関に対する県内大学進学説明会参加者数	(2020年度) —	240人
ふじのくに地域・大学コンソーシアム事業への参加留学生数	(2020年度) 378人	500人
海外修学旅行を実施した高等学校の割合	(2020年度) 0%	40%

本施策は、「海外に留学する大学生や高校生を増やすとともに、外国人留学生の受入れを増やし、海外交流を促進すること」を目標に掲げています。

この目標を達成するため、活動指標を設定し、施策の進捗を管理しています。

◆ 施策推進の視点・主な取組

👉 **視点1 グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成**

① 産学官の連携による海外留学の促進

民間企業や各種団体などとの産学官の連携を強化し、県内大学生の海外留学を支援するとともに、ふじのくにグローバル人材育成基金を活用し、高校生と教職員の海外体験の促進に取り組みます。

👉 **視点2 外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化**

② 外国人留学生の受入れ・定着の促進

本県への留学促進に向けた積極的な情報発信を行うとともに、滞在サポートや交流支援・就職支援など、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する留学生支援事業への支援を通じ、就職（出口）の成果が外国人留学生の受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。

👉 **視点3 児童・生徒等に対する国際感覚の涵養**

③ アフターコロナに向けた海外との交流促進

異文化に触れ、外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた人材を育成するため、高等学校の海外修学旅行等を促進するとともに、県内大学における海外高等教育機関との交流や短期留学生交流を推進します。

2 ページを御覧ください。

本施策では、「グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成」、「外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化」、「児童・生徒等に対する国際感覚の涵養」という視点から、産学官の連携による海外留学の促進、外国人留学生の受入れ・定着の促進、アフターコロナに向けた海外との交流促進を実施しています。

## 1 現状・課題と県の施策

### 【現状・課題 1】

- あらゆる分野でグローバル化が進展する中、異なる言語、文化、価値観などそれぞれのバックグラウンドに由来する差異を乗り越え、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、地域や国際社会に貢献できる人材の育成が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、グローバルな視点を育む海外での学びは大きな制約を受け、海外への留学生数は大きく減少しています。

#### **視点 1** グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成

- 施策の方向性⇒世界に目を向け、意欲を持って参加する県内大学生の海外留学や高校生の海外体験を産学官が一体となって支援することにより、多様性を理解し、地域や世界に貢献できる人材の育成に取り組みます。

主な取組⇒産学官の連携による海外留学の促進

3 ページを御覧ください

現状・課題と県の施策について御説明します。

まず、現状と対応すべき課題の一つ目です。

あらゆる分野でグローバル化が進展する中、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力を身につけ、地域や国際社会に貢献できる人材の育成が求められていますが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、海外への留学生数は大きく減少しています。

県は、「グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成」という視点をもって、産学官が一体となって海外留学を促進する取組を推進します。

### 1 県内高等教育機関から海外への留学生数の推移

- ・県内高等教育機関から海外への留学生数は、令和元年度までは堅調に推移していましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による世界的な出入国制限により、大きく減少しました。

#### <県内高等教育機関から海外への留学生数>

	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
静岡県	904人	809人	887人	19人	(集計中)	1,000人
全国	105,301人	115,146人	107,346人	1,487人	(未発表)	(2020/R2) 120,000人

まず、「1 県内高等教育機関から海外への留学生数の推移」です。

県内高等教育機関から海外への留学生数は、令和元年度までは堅調に推移していましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による世界的な出入国制限により、大きく減少しました。

## 2 グローバル人材育成基金による海外交流者数

- ・ふじのくにグローバル人材育成基金を活用した県内高校生及び教職員の海外交流者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度・2年度と減少しましたが、令和3年度は、オンラインによる交流を促進した結果、増加しています。

### <県内高校生及び教職員の海外交流者数>

2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2022~2025/R4~R7)
230人	222人	154人	82人	353人 (オンライン)	累計 1,000人

続いて、「2 グローバル人材育成基金による海外交流者数」です。

ふじのくにグローバル人材育成基金を活用した県内高校生及び教職員の海外交流者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度・2年度と減少しましたが、令和3年度は、オンラインによる交流を促進した結果、増加しています。

### 【現状・課題2】

- 出身国等の発展への貢献はもとより、海外からの優れた人材の確保、日本人学生の異文化理解等にもつながる海外からの留学生の受入れを積極的に進めていくことが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少した海外からの留学生の受入れを増やすため、アフターコロナも見据えた海外教育機関へのリクルーティング等により、本県への留学促進を図っていく必要があります。

#### 👉 **視点2** 外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化

- 施策の方向性⇒学生の多様性を養い、グローバルな視点を兼ね備えた人材を育成するため、コロナ禍で激減した外国人留学生の獲得に積極的に取り組むとともに、本県の持続的な発展を支える外国人留学生の県内定着を促進します。

主な取組⇒外国人留学生の受入れ・定着の促進

4 ページを御覧ください。  
現状と対応すべき課題の二つ目です。

これからの社会においては、海外からの優れた人材の確保、日本人学生の異文化理解等にもつながる海外からの留学生の受入れを積極的に進めていくことが重要であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により減少した海外からの留学生の受入れを増やすため、海外教育機関へのリクルーティング等により、本県への留学促進を図っていく必要があります。

県は、「外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化」という視点をもって、コロナ禍で激減した外国人留学生の獲得に積極的に取り組むとともに、本県の持続的な発展を支える外国人留学生の県内定着を促進します。

### 1 外国人留学生数の推移

- ・外国人留学生数は年々増加の傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限により、令和3年度は減少に転じました。
- ・外国人留学生は、国内の日本語学校を經由して高等教育機関や専修学校に入学する割合が高いため、国内の日本語教育機関に在籍する留学生の減少に伴い、今後、県内高等教育機関や専修学校の在籍者数が減少することが懸念されます。
- ・増加傾向に転じるのは令和6年頃の見込みであり、それまでは留学生数の減少が続くことが予想されます。

#### <外国人留学生数の推移>

(各年5月1日現在)

	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
静岡県	2,821人	3,355人	3,598人	3,939人	3,494人	/
高等教育機関	961人	1,076人	1,176人	1,206人	1,188人	
専修学校	780人	952人	1,224人	1,541人	1,604人	
日本語学校	1,080人	1,327人	1,198人	1,192人	702人	
全 国	267,042人	298,980人	312,214人	279,597人	242,444人	(2020/R2) 300,000人

まず、「1 外国人留学生数の推移」です。

本県の外国人留学生数は年々増加の傾向にありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限により、令和3年度は減少に転じました。

<留学生数の増減動向（推定）>

	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
留学生数	3,494 人	↓	↓	↗	5,000 人
日本語学校	702 人 入学者減	↗ 入学増	回復	卒業生輩出回復	
高等教育機関等	2,792 人	↘ 入学生減	↘ 入学生減	↗ 入学増	↗1-2 年増

※R7 時点で学部 3-4 年生はコロナ以前の学生数と比較して減少しているため、全学年で影響がなくなるのは R9 以降の見込みである。

外国人留学生は、国内の日本語学校を經由して高等教育機関や専修学校に入学する割合が高いため、国内の日本語教育機関に在籍する留学生の減少に伴い、今後、県内の高等教育機関や専修学校の在籍者数が減少することが懸念されます。

増加傾向に転じるのは令和 6 年頃の見込みであり、それまでは留学生数の減少が続くことが予想されます。

## 2 外国人留学生の進路状況

・外国人留学生数の国内への残留率は減少傾向にありますが、本県への残留率は概ね3割で推移しています。

卒業年度		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
卒業生数 A		197人	226人	225人	239人	311人
日本 国内	県内進学 B	13人	31人	22人	16人	25人
	県外進学 C	8人	11人	8人	10人	13人
	県内就職 D	50人	40人	42人	52人	68人
	県外就職 E	54人	48人	54人	33人	50人
	その他	21人	27人	27人	43人	44人
	計	146人	157人	153人	154人	200人
	国内残留率	74.1%	69.5%	68.0%	64.4%	64.3%
母国	帰国者数	49人	56人	69人	83人	106人
	帰国率	24.9%	24.8%	30.7%	34.7%	34.1%
母国以外の海外	渡航者数	2人	13人	3人	2人	5人
県内残留率計 (B+D) /A		32.0%	31.4%	28.4%	28.5%	29.9%

5 ページを御覧ください。

「2 外国人留学生の進路状況」です。

外国人留学生数の国内への残留率は、平成28年度から令和2年度までの5年間で約10%減少していますが、本県への残留率は3割程度で推移しています。

### 【現状・課題3】

- 教育分野での海外との交流促進に向けては、本県地域外交方針における重点国・地域等との継続的な相互交流や、県内高等教育機関と海外大学との連携強化を図っていくことが重要です。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止されていた海外との交流を再構築するとともに、オンラインとリアルの長所を活かした新たな交流を促進していく必要があります。

#### 👉 視点3 児童・生徒等に対する国際感覚の涵養

- 施策の方向性⇒オンラインとリアルの長所を活かし、海外の地域や教育機関との国際交流を促進することにより、早期から国際感覚を育て、海外への留学生数の増加や外国人留学生の受入れ拡充につなげます。

主な取組⇒アフターコロナに向けた海外との交流促進

6 ページを御覧ください。  
現状と対応すべき課題の三つ目です。

教育分野での海外との交流促進に向けては、本県地域外交方針における重点国・地域等との継続的な相互交流や、県内高等教育機関と海外大学との連携強化を図っていくことが重要であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止されていた海外との交流を再構築するとともに、オンラインとリアルの長所を活かした新たな交流を促進していく必要があります。

県は、「児童・生徒等に対する国際感覚の涵養」という視点をもって、早期から国際感覚を育て、海外への留学生数の増加や外国人留学生の受入れ拡充につなげます。

## 1 高校生の海外交流の状況

- ・地域外交の重点国・地域等との継続的な高校生相互交流を進めています。
- ・令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流は実施していないものの、オンラインにより交流を継続しています。

### ア モンゴルとの交流

- ・平成23年7月 静岡県とモンゴル国ドルノゴビ県において友好協定締結
- ・平成27年8月 県知事とモンゴル教育・文化・科学大臣との間で交流促進のための覚書調印
- ・平成28年4月 受入、派遣を同年に行う確認事項締結

### イ 台湾との交流

- ・平成21年9月に4縣・市（高雄市、台北縣、高雄縣、嘉義市）との間に協定締結
- ・平成23年3月に3縣・市（台中市、彰化縣、台東縣）との間に協定締結

### <台湾の高校と学校交流を実施した県内高校数（オンライン交流含む）>

2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
21校	20校	17校	11校	0校	10校

「1 海外交流の状況」です。

地域外交の重点国・地域等との継続的な高校生相互交流を進めています。  
令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流は実施していないものの、オンラインにより交流を継続しています。

## 2 海外修学旅行を実施した高等学校の割合

- ・海外修学旅行を実施した高等学校の割合は、平成29年度35.5%（49校）から令和元年度37.7%（52校）となりましたが、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施していません。

### <海外修学旅行を実施した高等学校の割合（校数）>

2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2025/R7)
35.5% (49校)	39.1% (54校)	37.7% (52校)	0% (実施なし)	0% (実施なし)	40.0%

次に、「2 海外修学旅行を実施した高等学校の割合」です。

海外修学旅行を実施した高等学校の割合は、平成29年度35.5%（49校）から令和元年度37.7%（52校）となりましたが、令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施していません。

### 3 高等教育機関における海外大学との交流の状況

- ・県内の高等教育機関は、コロナ禍にあっても海外との交流を進めており、令和2年度までに、県内大学・短期大学が、43か国・地域の大学等と305の協定を締結しています。
- ・国別内訳の上位3か国は、中国（62）、アメリカ（34）、次いで韓国（27）の順となっています。
- ・協定に基づく交流は、オンラインの活用により取組を進めています。

#### <高等教育機関における海外大学との大学間協定累積数>

2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
253件	272件	295件	299件	305件	(集計中)

「3 高等教育機関における海外大学との交流」ですが、県内の高等教育機関は、コロナ禍にあっても海外との交流を進めており、令和2年度までに、43か国・地域の大学等と305の協定を締結しています。

国別内訳の上位3か国は、中国、アメリカ、次いで韓国の順となっており、オンラインの活用により取組を進めています。

## 2 施策に関する県と市町、民間等との役割分担

区分	役割・取組等
県	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大学、産業界、地域の連携組織である「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を通じ、海外留学や外国人留学生の受入れを促進する。</li><li>・ 国内外で活躍できるグローバル人材の育成を社会総がかりで支援するため、「ふじのくにグローバル人材育成基金」の活用により、県内の高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進する。</li><li>・ 県内の大学生や高校生の海外留学や外国人の本県留学に向けた意識の醸成を図るため、留学情報や県内高等教育機関の魅力等について積極的な情報発信を行う。</li></ul>
教育機関	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 外国人留学生の受入れの拡充や海外の教育機関との交流協定の締結、学内のグローバル化の体制を整備する。</li><li>・ 学生の海外留学、外国人留学生の受入れに対し、奨学金や寮の整備など必要な支援を行う。</li></ul>
地域・産業界	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」や「ふじのくにグローバル人材育成基金」への寄附を通じ、学生や生徒の海外留学・海外研修等を支援する。</li><li>・ 外国人留学生や海外への留学人材を積極的に活用するなど、年齢や性別、国籍などに関わりなく働く意欲のある誰もがその能力を発揮できる環境づくりに取り組む。</li></ul>

8 ページを御覧ください。

ここでは、施策に関する県と教育機関、地域・産業界との役割分担について御説明します。

県は、大学、産業界、地域の連携組織である「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を通じ、海外留学や留学生の受入れを促進するほか、「ふじのくにグローバル人材育成基金」の活用により、県内の高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進します。

教育機関は、外国人留学生の受入れの拡充や海外の教育機関との交流協定の締結、学内のグローバル化の体制を整備するとともに、学生の海外留学や外国人留学生の受入れに対し、奨学金や寮の整備など必要な支援を行います。

地域や産業界は、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」や「ふじのくにグローバル人材育成基金」への寄附を通じ、学生や生徒の海外留学・海外研修等を支援していただくとともに、留学生や海外への留学人材を積極的に活用するなど、働く意欲のある誰もが能力を発揮できる環境づくりに取り組んでいただきます。

### 3 主な取組

#### **視点1** グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手の育成

取組名	産学官の連携による海外留学の促進	担当課名	大学課、教育政策課
目的 (何のために)	民間企業や各種団体などとの産学官の連携を強化し、県内大学生の海外留学を支援するとともに、ふじのくにグローバル人材育成基金を活用し、高校生と教職員の海外体験の促進に取り組めます。		

続いて、9ページ、10ページを御覧ください。  
主な取組について御説明します。  
まず、「視点1」についてです。

海外留学を促進するため、産学官の連携を強化し、県内大学生の海外留学を支援するとともに、ふじのくにグローバル人材育成基金を活用し、高校生と教職員の海外体験の促進に取り組んでいます。

**取組1：産学官による海外留学支援**

(P.26-27 参考資料)

**(1)「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」への参画 (H29~R3)**

静岡県では、文部科学省が行う留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」(R3 で募集終了)に参画し、県内大学生の海外留学を支援してきました。

**<目的>**

「未来の静岡県経済界を牽引するグローバルリーダー」の育成を目指し、県内高等教育機関に在籍する日本人学生で、海外留学を希望する優秀な学生に奨学金を給付し、海外留学を支援する。

**<特徴>**

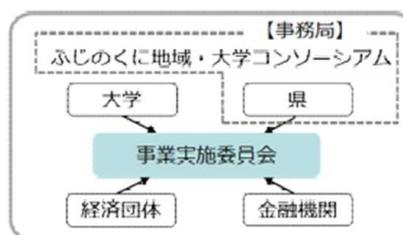
- ・留学の前後や留学中にインターンシップを義務付けるなど、高度かつ実践的な留学プログラム
- ・企業・大学・行政が連携し優秀な学生を選抜
- ・選抜された学生に、企業寄附、県・国の補助金を元に、奨学金を給付

**<実施体制>**

「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が実施主体となり、広く地域企業・経済団体、金融機関等の協力のもと、地域コーディネーターと協力企業代表により事業実施委員会を組織した。

実施委員会：事業の方向性を決定

事務局：事業の企画・運営・資金管理 等



取組内容(手段、手法など)

取組の一つ目は、「産学官による海外留学の支援」です。

本県では、平成29年度から令和3年度まで、文部科学省が行う留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」に参画し、県内大学生の海外留学を支援してきました。

「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が実施主体となり、広く県内の企業・経済団体、金融機関等の協力のもと、地域コーディネーターと協力企業代表により事業実施委員会を組織しました。

**<協力企業>**

企業数：21 団体（128 社）、寄附総額：741 万円

**<採用実績>**

募集年度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	計
採用人数	5人	6人	4人	-	-	15人

※令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により募集中止

令和3年度は募集したが応募者がいなかった。

**<留学実績>**

カナダ (5)、アメリカ (2)、フィリピン (2)、韓国 (1)、ニュージーランド (1)  
イギリス (1)、ドイツ (1)、スペイン (1)、デンマーク (1)、チェコ (1)

※留学先が2か国に渡る事例あり

これまで、県内の21団体、延べ128の企業様から741万円の寄附をいただき、15人を派遣留学生として採用しました。

<留学テーマ>

留学先	留学テーマ
カナダ	ファルマバレーを世界の医薬品研究の中心へ
アメリカ合衆国	浜松を起業家の街に
ドイツ	ドイツにおける子どもの貧困対策に学ぶ ～しずおかキッズカフェ×箱舟～
韓国	機械の目で静岡の明るい未来を見通す
フィリピン	途上国から学ぶ日本のライフスキル教育 ～フィリピンから静岡へ～
スペイン	廃校舎と空き家を観光資源に！ 「まつり」で繋ぐ静岡の地域コミュニティと世界の輪。和。話。

<留学後の状況>

県内就職	5人	製造業、情報通信業、サービス業、公務、その他
県外就職	6人	
在学中	4人	-

留学先、学びのテーマは多岐にわたりますが、現地で国際学会に参加したり、静岡茶をPRするなど、実践的な留学プログラムを行っています。

留学後は、5人が県内に、6人が県外に就職しました。

## (2) ふじのくに留学応援奨学金の創設 (R4~)

「トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コース」の終了に伴い、令和4年度から、**本県独自の新たな産学官連携による奨学金制度「ふじのくに留学応援奨学金」を創設**しました。

### <目的>

県内の産学官が連携し、「グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手となる人材」を育成する。

### <特徴>

- ・①本県の地域課題の解決に寄与する意欲を有する人材、②帰国後、本県が行う留学機運醸成に向けた取組に主体的に参画する人材を支援
- ・派遣留学生は、留学先での実践的活動を通し、主体的な課題解決能力を培い、留学経験を、将来、本県の地域・産業界へ還元することを目指す。

11ページを御覧ください。

「トビタテ！留学JAPAN地域人材コース」の終了に伴い、令和4年度から、本県独自の新たな奨学金制度「ふじのくに留学応援奨学金」を創設しました。県内の産学官が連携し、「グローバル社会における持続可能な地域社会の担い手となる人材を育成する」ことを目的としています。

本制度では、①本県の地域課題の解決に意欲を有する人材、②帰国後、本県の留学機運の醸成に向けた取組に主体的に参画する人材を支援します。また、派遣留学生は、留学先での実践的活動を通して主体的な課題解決能力を培い、留学経験を、将来、本県の地域・産業界へ還元することを目指します。

<制度概要>

プログラム	海外の教育機関における学修活動と現地での実践的活動 (フィールドワーク、ボランティア活動等)
留学期間	中長期(3か月~1年)※6か月以上を推奨
奨学金額	アジア地域 : 40万 上記以外の国・地域以外 : 50万
財 源	県補助金(補助率2/3) + 企業寄附金
採択人数	<事業費300万円と想定> 6人程度/年
実施主体	ふじのくに地域・大学コンソーシアム

なお、奨学金制度は、県の補助金と県内企業様からの寄附金で運営し、年間6人程度の海外留学を支援します。

**取組2：ふじのくにグローバル人材育成事業** (P.28-29 参考資料)

国内外で活躍できるグローバル人材を育成するため、「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用し、高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進しています。

**<令和3（2021）年度取組>**

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校生の留学や教職員の海外研修は実施できなかったが、海外体験に意欲のある者を後押しするため、オンラインによる交流を実施した。

**(1) 大学連携企画留学**

米ジョージタウン大学のオンライン英会話プログラムを実施（年2回）

時 期	夏開催	春開催
形 態	Zoom ミーティングによる、1日90分、10日間、計15時間のプログラム	
期 間	①令和3年7月27日～8月7日 ②令和3年8月10日～8月21日	令和4年3月22日～4月2日
応募要件	・英語運用能力が、B1 CEFR 以上の実力を有する者 (例) 実用英語技能検定 準1級～2級の間程度 ・各種英語資格・検定試験の4技能スコアにより判断	
参加人数	90人	65人
参加費用	・県教育委員会が全額負担 ・1人あたり65,000円程度(研修費用、教材、サポート含む)	

続いて、12ページ、13ページを御覧ください。

取組の二つ目は、「ふじのくにグローバル人材育成事業」です。

静岡県教育委員会では、国内外で活躍できるグローバル人材を育成するため、「ふじのくにグローバル人材育成基金」を活用し、県内高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、高校生の留学や教職員の海外研修は実施できませんでしたが、海外体験に意欲のある者を後押しするため、オンラインによる交流を実施しました。

大学との連携企画による留学では、アメリカ・ジョージタウン大学のオンライン英会話プログラムを夏と春に実施し、延べ155人が参加しました。

(2) グローバルハイスクール研究指定

学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定し、オンライン交流による課題研究を実施

高校	期間	テーマ	主な取組・交流人数
静岡城北	R3～	グローバル化する社会に目を向け、地域の課題をグローバルな視点でとらえ、解決方法を模索しながら行動する人材の育成	米国など ウィンターセミナーなど (12月) 40人
藤枝西	R1～	国際比較を通して、「日本人としての国際社会での役割」を考える	オーストラリアなど イングリッシュキャンプ (8月) 29人
静岡聖光学院	R3～	夏季の効果的・効率的なエネルギーの利用についての国際比較	オーストラリア オンライン交流 (12月) 19人
浜松湖東	R3～	格差や差別で困っている人と接することで社会問題を理解し、自分との関わりを体験を通して学んでいく	東ティモール オンライン交流 (8月) 5人
浜松湖南	R2～	地域における国際交流や異文化理解・多文化共生を推進する人材の育成	英国など エンパワーメントプログラム (8月) 27人
静岡県西遠女子学園	R2～	現実と仮想のコミュニケーションを融合した地域と世界の課題研究	オーストラリア オンライン交流(随時) 21人

グローバルハイスクール研究指定は、学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定し、オンライン交流による課題研究を実施するもので、県内の6高校が参加しました。

### (3) 海外インターンシップ

静岡銀行の本部と香港支店をオンラインで結び、銀行の国際業務について学習  
(新型コロナウイルス感染拡大のため、国内研修のみをオンライン形式で実施)

日 時：令和4年3月23日

参 加：生徒52人、教職員5人

#### 【参考】参加者等アンケート

##### (1) 平成28年度参加者に対する追跡調査(令和2年)

- ・海外体験後、ものの考え方や興味関心が変わった(96.2%)
- ・後輩にもこの事業による海外体験を勧めたい(100.0%)

##### (2) 米ジョージタウン大学オンライン英会話プログラム・夏開催参加者アンケート (令和3年)

- ・英語のスピーキング力、リスニング力が向上したという実感が「ある」「どちらかといえばある」と答えた者の割合(96.4%)
- ・今後、英語外部検定(英検・TOEFLなど)にチャレンジする意欲が「高まった」「どちらかといえば高まった」と答えた者の割合(92.9%)
- ・プログラムに「満足」「やや満足」と答えた者の割合(98.8%)

#### <今後の取組>

国際的な感覚や視点を持つ高校生や教職員の育成のため、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を見据えながら、オンラインと実際の海外渡航を組み合わせた海外交流を促進していく。

海外インターンシップは、静岡銀行の本部と香港支店をオンラインで結び、静岡銀行の国際業務について学習するものです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、国内研修のみをオンライン形式で実施しました。

平成28年度、本事業に参加した者に対する追跡調査では、参加者の96.2%が「海外体験後、ものの考え方や興味関心が変わった」と回答し、また、全員が「後輩にもこの事業による海外体験を勧めたい」と回答しています。令和3年夏に実施したオンライン英会話プログラム参加者へのアンケートでは、参加者の96.4%が「英語のスピーキング力、リスニング力が向上したという実感が「ある」「どちらかといえばある」と答え、また、92.9%が「今後、英語外部検定にチャレンジする意欲が「高まった」「どちらかといえば高まった」と回答しています。

今後、国際的な感覚や視点を持つ高校生や教職員の育成のため、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を見据えながら、オンラインと実際の海外渡航を組み合わせた海外交流を促進していきます。

### 取組3：ふじのくに海外留学応援フェアの開催

本県における「グローバル人材の育成」のため、平成27年度から、県内の学生及び県内高校生に対し、海外留学に関する講演会や各国大使館等によるミニセミナーを開催しています。

#### <令和4年度実施計画>

開催日	令和4年12月18日
実施方法	対面とオンライン（Zoom）とのハイブリッド
内容	講演会、大使館等によるミニセミナー・個別相談、留学経験者との交流
参加機関	大使館、留学関連団体 大使館：アメリカ、カナダ、韓国、台湾、中国、ドイツ、フィリピン、フランス（8か国・地域） 留学関連団体：日本学生支援機構、AFS日本協会、日本ワーキング・ホリデー協会（3機関）
実施主体	静岡県、静岡県教育委員会、ふじのくに地域・大学コンソーシアム

14ページを御覧ください。

取組の三つ目は、「ふじのくに海外留学応援フェアの開催」についてです。

本県における「グローバル人材の育成」のため、平成27年度から、県内の学生及び県内高校生に対し、海外留学に関する講演会や各国大使館等によるミニセミナーを開催しています。

<開催実績>

(1) 参加者数の推移

2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
172人	270人	207人	230人	314人	149人	255人

(2) 令和3年度参加者アンケートの状況

参加動機	・留学したい 59% ・保護者の勧め 17% ・先生の勧め 7% ・友人の勧め 7%
満足度	・講演会 97% ・大使館等によるミニセミナー 93% ・大使館等による個別相談 100% ・留学経験者との交流コーナー 100%
参加者の声	・実際に留学を経験した人の貴重な話を聞いてよかった。 ・講演会がとてもよかった。留学での生活の様子がよく分かった。 ・詳しい留学制度や仕組み、体験談など多くの情報を知ることができた。 ・自分で収集しようとしても集められない内容を聞くことができた。
海外留学の 予定	・ある 10% ・具体的に決まっていない 51%

開催実績ですが、フェアの参加者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していますが、対面とオンラインを併用した令和3年度は255人が参加しました。

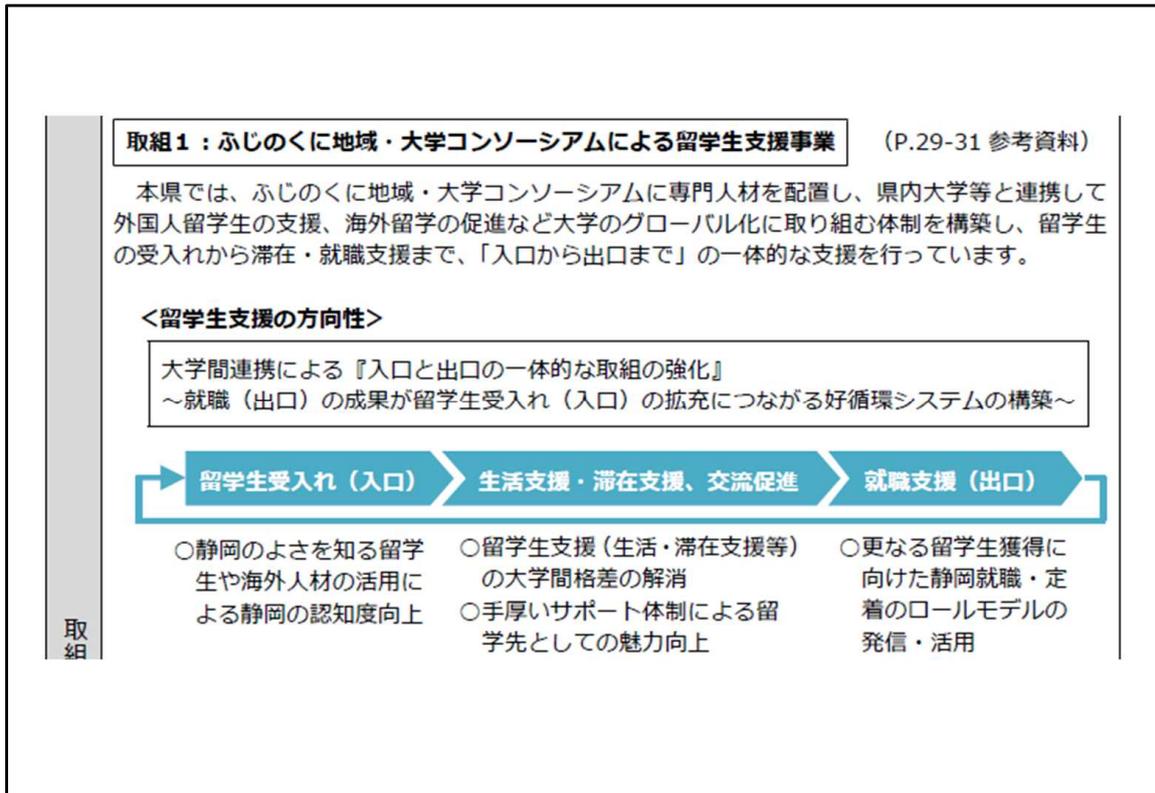
内容に対する参加者の満足度は高く、具体的には決まっていない者を含め、参加者の6割が海外への留学を検討しています。

**視点2** 外国人留学生の受入れ拡充に向けた入口から出口までの一体的な支援の強化

取組名	外国人留学生の受入れ・定着促進	担当課名	大学課
目的 (何のために)	本県への留学促進に向けた積極的な情報発信を行うとともに、滞在サポートや交流支援、就職支援など、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する留学生支援事業への支援を通じ、就職（出口）の成果が外国人留学生の受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。		

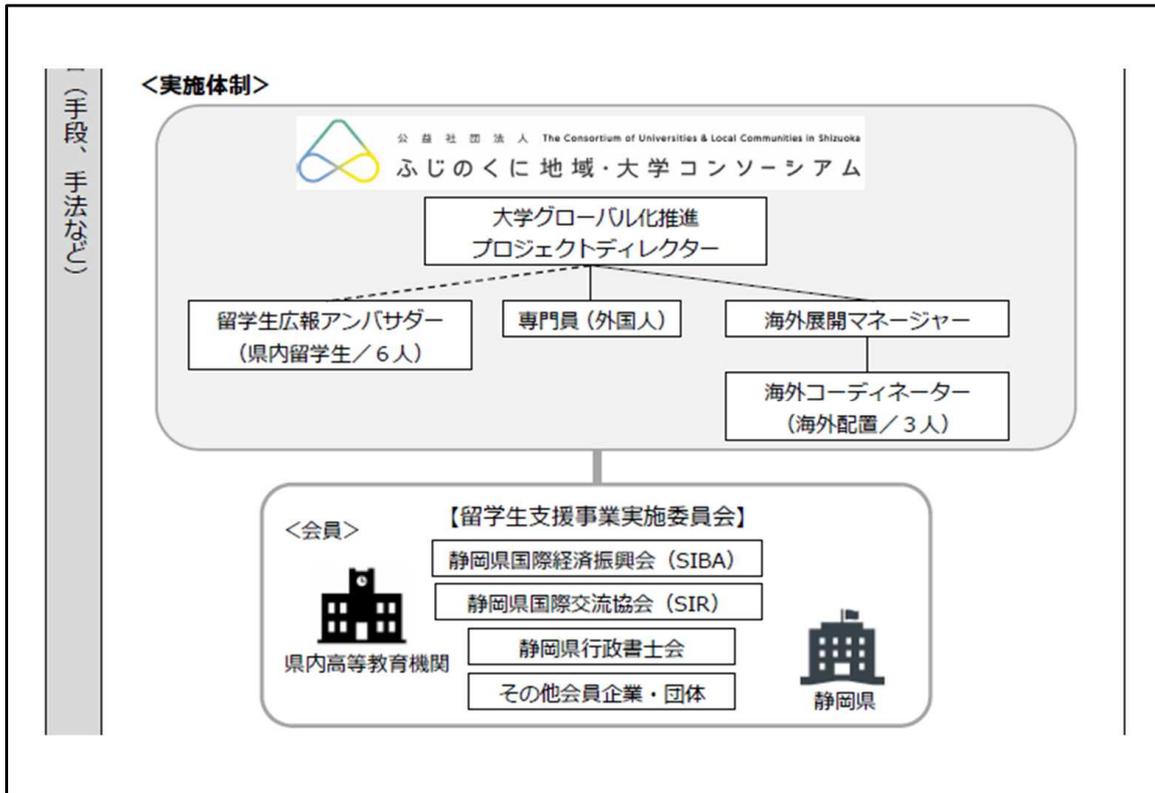
続いて、15ページを御覧ください。  
「視点2」についてです。

外国人留学生の受入れ・定着促進に向けては、本県への留学促進に向けた積極的な情報発信を行うとともに、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する留学生支援事業への支援を通じ、就職（出口）の成果が外国人留学生の受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。



取組の一つ目は、「ふじのくに地域・大学コンソーシアムによる留学生支援事業」です。

本県では、コンソーシアムに専門人材を配置し、県内大学等と連携して留学生の受入れ、海外留学の促進、大学のグローバル化に取り組む体制を構築し、留学生の受入れから滞在・就職支援まで、「入口から出口まで」の一体的な支援を行っています。



こちらは実施体制です。

コンソーシアムに、大学グローバル化推進プロジェクトディレクターを配置し、その下に海外部門を統括するマネージャー、本県にゆかりのある海外人材や、県内で学ぶ留学生を登用した広報アンバサダーなどを配置しています。

また、留学生支援事業実施委員会には、県内高等教育機関のほか、静岡県国際経済振興会や静岡県国際交流協会、企業など多様な主体が会員として参加しています。

<b>&lt;事業内容&gt;</b>					
<b>入 口</b>	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">受入促進</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○留学ガイドブック、静岡キャンパスマップの制作               <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子ブックをコンソーシアムホームページに掲載</li> </ul> </li> <li>○静岡県大学進学フェアの開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の日本語学校・専門学校に在籍する留学生を対象 オンラインと対面で開催</li> </ul> </li> <li>○海外コーディネーターによる静岡留学促進事業</li> </ul> </td> </tr> </table>	受入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○留学ガイドブック、静岡キャンパスマップの制作               <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子ブックをコンソーシアムホームページに掲載</li> </ul> </li> <li>○静岡県大学進学フェアの開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の日本語学校・専門学校に在籍する留学生を対象 オンラインと対面で開催</li> </ul> </li> <li>○海外コーディネーターによる静岡留学促進事業</li> </ul>		
受入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○留学ガイドブック、静岡キャンパスマップの制作               <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子ブックをコンソーシアムホームページに掲載</li> </ul> </li> <li>○静岡県大学進学フェアの開催               <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外の日本語学校・専門学校に在籍する留学生を対象 オンラインと対面で開催</li> </ul> </li> <li>○海外コーディネーターによる静岡留学促進事業</li> </ul>				
<b>滞 在 中</b>	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">生活支援</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○静岡県行政書士会によるビザ・コンサルティングサービス               <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の無料相談会の開催、電話相談</li> <li>・会員校に行政書士を派遣し、講習や相談等を会員校単位で実施</li> <li>・就職支援事業等での参加企業や学生からの相談対応</li> </ul> </li> <li>○生活基盤づくり講座（防災、生活マナー、交通ルール等）の開催</li> <li>○勉学環境サポート事業（無料コピーサービス）の実施</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">育成事業</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流イベントの実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生⇄日本人学生の交流・日本文化の理解促進（ハブツアー）</li> <li>・留学生⇄社会人の交流による職業観の形成（R4新規事業）</li> </ul> </li> <li>○日本語能力向上事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・JLPTN1 合格補助や、日本語スピーチ発表の機会の提供</li> </ul> </li> </ul> </td> </tr> </table>	生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○静岡県行政書士会によるビザ・コンサルティングサービス               <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の無料相談会の開催、電話相談</li> <li>・会員校に行政書士を派遣し、講習や相談等を会員校単位で実施</li> <li>・就職支援事業等での参加企業や学生からの相談対応</li> </ul> </li> <li>○生活基盤づくり講座（防災、生活マナー、交通ルール等）の開催</li> <li>○勉学環境サポート事業（無料コピーサービス）の実施</li> </ul>	育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流イベントの実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生⇄日本人学生の交流・日本文化の理解促進（ハブツアー）</li> <li>・留学生⇄社会人の交流による職業観の形成（R4新規事業）</li> </ul> </li> <li>○日本語能力向上事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・JLPTN1 合格補助や、日本語スピーチ発表の機会の提供</li> </ul> </li> </ul>
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○静岡県行政書士会によるビザ・コンサルティングサービス               <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の無料相談会の開催、電話相談</li> <li>・会員校に行政書士を派遣し、講習や相談等を会員校単位で実施</li> <li>・就職支援事業等での参加企業や学生からの相談対応</li> </ul> </li> <li>○生活基盤づくり講座（防災、生活マナー、交通ルール等）の開催</li> <li>○勉学環境サポート事業（無料コピーサービス）の実施</li> </ul>				
育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流イベントの実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生⇄日本人学生の交流・日本文化の理解促進（ハブツアー）</li> <li>・留学生⇄社会人の交流による職業観の形成（R4新規事業）</li> </ul> </li> <li>○日本語能力向上事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・JLPTN1 合格補助や、日本語スピーチ発表の機会の提供</li> </ul> </li> </ul>				

16ページを御覧ください。

コンソーシアムが行っている留学生支援事業の内容です。  
入口（受入促進）から出口（就職支援）まで、留学生のステージに合わせ、  
きめ細かに実施しています。

取組内容 (手段、手法など)	出 口	就職支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>○就職支援講座の開催（SIR に委託）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の産業・企業、就活の基礎知識、OG・OB 交流、面接体験 等</li> </ul> </li> <li>○企業見学会の開催（SIBA に委託）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職まで2年以上ある留学生を対象としたバスツアー</li> </ul> </li> <li>○インターンシップ・就職マッチング（SIBA に委託）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・SIBA キャリアサポートセンターと連携した県内企業とのマッチング</li> </ul> </li> <li>○企業交流会の開催（SIBA に委託）             <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生、留学経験のある日本人学生と企業との交流</li> <li>浜松、静岡、三島で開催</li> </ul> </li> <li>○その他、産学官の連携による就職促進事業の実施</li> </ul>												
	広報発信 <ul style="list-style-type: none"> <li>○SNS を活用した情報発信</li> <li>○留学生広報アンバサダー（6人）による情報発信             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の SNS で #Study in Shizuoka を付け、静岡での大学生活やコンソーシアムのイベント等を発信</li> </ul> </li> </ul>													
		<b>&lt;留学生支援事業への参加者数&gt;</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>2017 (H29)</th> <th>2018 (H30)</th> <th>2019 (R1)</th> <th>2020 (R2)</th> <th>2021 (R3)</th> <th>目標値 (2021/R3)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>374人</td> <td>418人</td> <td>501人</td> <td>378人</td> <td>355人</td> <td>500人</td> </tr> </tbody> </table>	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2021/R3)	374人	418人	501人	378人	355人	500人
2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	目標値 (2021/R3)									
374人	418人	501人	378人	355人	500人									

近年は、特に就職支援に力を入れており、産学官が連携して「企業の意識改革」と「留学生の静岡就職に必要なスキルを体系的に習得」する仕組みを構築し、企業と留学生の双方でミスマッチのない就職マッチングを促進しています。

事業に参加する留学生数は年々増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止や縮小に伴い、令和2年度、令和3年度は減少傾向にあります。

#### 取組2：留学生デジタルプラットフォーム構築事業

コロナ禍で激減した留学生の獲得と定着の強化に向け、アフターコロナを見据えた留学生支援の充実を図るため、DXと対面の効果的な融合により、就職（出口）の成果が留学生受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムを構築します。

（令和4年度新規事業／地方創生推進交付金活用）

##### <目的>

- ・海外学生のニーズを把握・分析し、ウェブやオンラインを活用した情報発信を強化することにより、「静岡県」「静岡の大学」への興味を喚起する。
- ・ニーズを可視化し、選びやすい状況にする過程で静岡留学への意識付けを行うとともに、将来のキャリアを静岡県で実現するイメージを与え、県内への入学促進と定着増を図る。

続いて、17ページを御覧ください。

取組の二つ目は、「留学生デジタルプラットフォーム構築事業」です。

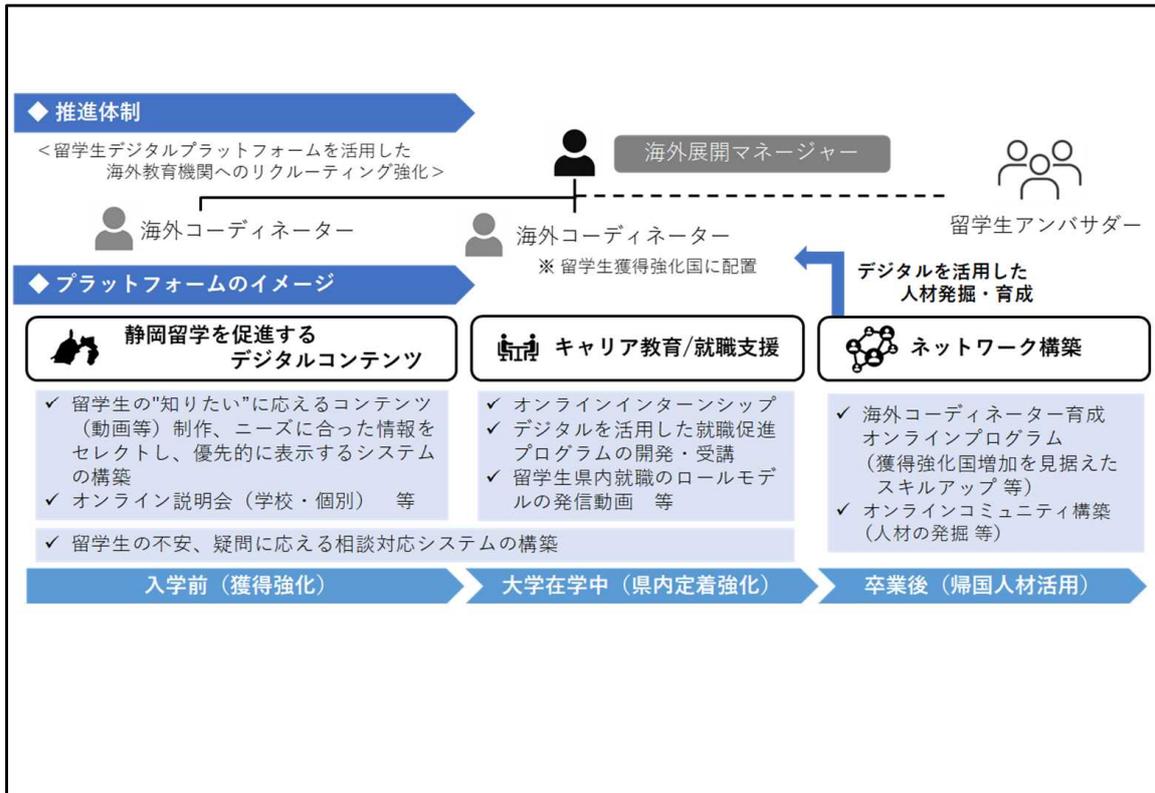
コロナ禍で激減した留学生の獲得と定着の強化に向け、アフターコロナを見据えた留学生支援の充実を図るため、令和4年度から、国の交付金を活用した新たな事業を開始しました。

海外学生のニーズを把握・分析し、デジタルを活用した情報発信を強化することにより、「静岡県」や「静岡の大学」への興味を喚起し、静岡留学への意識付けを行うとともに、将来のキャリアを静岡県で実現するイメージを与え、県内への入学促進と定着増を図ることを目的としています。

＜事業概要＞																			
DXの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムに、本県留学に関する総合窓口としてのデジタルプラットフォーム（ウェブシステム）を構築する。</li> <li>・多言語のウェブアプリとし、留学生の「知りたい」に応える学び、生活、就職などのコンテンツを掲載するほか、オンライン相談システムやFAQ（よくある質問に対するQ&amp;A）を導入する。</li> <li>・デジタルを活用した就職促進プログラムを開発し、反復学習を可能にするとともに、オンライン上でのインターシップや企業との交流を実施する。</li> </ul>																		
対面との融合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじのくに地域・大学コンソーシアムに、海外部門を統括する人材として「海外展開マネージャー」を配置するほか、本県への留学経験がある現地人材等を「海外コーディネーター」として獲得強化国に配置し、デジタルプラットフォームを活用したリクルーティングを強化する。</li> </ul> <p>○海外教育機関に対する県内大学進学説明会の実施計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 20%;">2022 (R4)</th> <th style="width: 20%;">2023 (R5)</th> <th style="width: 20%;">2024 (R6)</th> <th style="width: 25%;">2025 (R7)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">強化国</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">ベトナム、インドネシア、スリランカ（3か国）</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">（4か国）</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">参加者数</td> <td style="text-align: center;">150人</td> <td style="text-align: center;">180人</td> <td style="text-align: center;">210人</td> <td style="text-align: center;">240人</td> </tr> </tbody> </table>					2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	強化国	ベトナム、インドネシア、スリランカ（3か国）		（4か国）		参加者数	150人	180人	210人	240人
	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)															
強化国	ベトナム、インドネシア、スリランカ（3か国）		（4か国）																
参加者数	150人	180人	210人	240人															
ネットワークの構築と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前、在学中から卒業後も利用できるオンラインコミュニティを構築し、プラットフォームを活用した人材発掘や育成を行う。</li> </ul>																		

コンソーシアムに、本県留学に関する総合窓口となる多言語のデジタルプラットフォーム（ウェブシステム）を構築し、留学生の「知りたい」に応える学び、生活、就職などのコンテンツを掲載するとともに、海外部門を統括する「海外展開マネージャー」、本県への留学経験がある現地人材等を「海外コーディネーター」として海外に配置し、デジタルプラットフォームを活用したリクルーティングを強化していきます。

令和4年度及び令和5年度は、ベトナム、インドネシア、スリランカを留学生獲得の強化国とし、現地の教育機関に対する進学説明会等を積極的に開催します。



これは、プラットフォームのイメージを図にしたものです。

入学前、在学中から、卒業後も利用できるオンラインコミュニティを構築し、プラットフォームを活用した人材の発掘や育成を行います。

DXと対面の効果的な融合により、就職（出口）の成果が留学生受入れ（入口）の拡充につながる好循環システムの構築を目指します。

### 取組3：さくらサイエンスプログラムの実施

科学技術振興機構が実施する「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」を活用し、アジア地域の青少年を日本に招聘し、科学技術分野での交流を深めることにより、本県への留学意識の醸成を図り、県内大学等への外国人留学生の受入れを促進します。

#### <令和4年度実施計画>

開催日	令和4年12月4日～10日
参加者	インドネシア西ジャワ州の高校生 8人 ※西ジャワ州と本県は、平成29年に「人材育成と経済分野での協力推進に係る覚書」を締結している。
テーマ	健康長寿世界一を目指して
実施内容	・高等教育機関による講義、研究室訪問、学生との交流 ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムによる留学説明 ・県内施設見学
訪問先	静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、東海大学海洋学部、 順天堂大学保健看護学部、国立遺伝学研究所、 ふじのくに地球環境史ミュージアム、静岡県富士山世界遺産センター 等

続いて、18ページを御覧ください。

取組の三つ目は、「さくらサイエンスプログラムの実施」です。

科学技術振興機構が実施する事業を活用し、本県と交流のあるアジア地域の高校生を招聘し、科学技術分野での交流を深めることにより、本県への留学意識の醸成を図り、県内大学等への外国人留学生の受入れを促進します。

<招へい実績>

2021 (R3)	インドネシア西ジャワ州の高校生を対象としたオンラインサイエンスプログラムの実施 (参加者数: 20 人)
2020 (R2)	インドネシア西ジャワ州の高校生・大学生を対象としたオンライン進学説明会の実施 (参加者数: 1,213 人) ※新型コロナウイルス感染症による代替事業
2019 (R1)	インドネシア西ジャワ州の高校生を対象としたサイエンスプログラムの実施 (参加者数: 8 人)
2016~18 (H28~30)	モンゴルの高校生を招聘したプログラムを実施 (参加者数: 計 24 人)

<成 果>

- ・令和元年度のプログラムに参加したインドネシアの高校生 1 名が、文部科学省国費外国人留学生奨学金を利用し、令和 4 年度内に来日予定



平成28年度以降、モンゴル、インドネシア西ジャワ州の高校生を対象に、プログラムを実施してきました。

令和元年度のプログラムに参加したインドネシアの高校生 1 名が、文部科学省の国費外国人留学生奨学金を利用し、令和 4 年度内に来日する予定です。

**取組4：国際学生寮モデル事業**

県内大学においては、外国人留学生の住居の確保が課題となっています。そこで、平成31年2月に、県内外の国際学生寮の整備事例をまとめ、県内高等教育機関で共有しました。さらに、県が中心となって、既存の施設を改修（リモデル）した留学生と日本人学生の混住型モデル寮をつくり、他大学にノウハウの横展開を図ります。

## &lt;改修概要&gt;

施設名称	静岡県立大学つづじヶ丘国際学生寮（静岡市清水区草薙） （地上2階建（RC造、昭和54年建築））	
改修内容	4LDK（世帯用）×4 ⇒ （個室4室+共有D）×3+交流スペース ※12名の学生が入居可能	
	2階	ユニット（個室4室+共有D）×2
	1階	ユニット（個室4室+共有D）×1、 交流スペース（ラウンジ、キッチン等）、洗濯室
予算額	4,759万円（R2：設計、R3：改修工事／補助率10/10）	
完成年月	令和4年2月	
その他	【新型コロナウイルス感染防止対策】 ①玄関を増築し、下足を脱ぎ自動水栓で洗浄後に寮に入る。 ②交流スペースを拡大し、利用時の社会的距離を確保できるよう配慮。現在部屋の外にある階段を屋内階段とする改修を行う。 ③ユニット内は個室とし、エアコンを設置	

19ページ、20ページを御覧ください。

取組の四つ目、「国際学生寮モデル事業」についてです。

県内大学においては、外国人留学生の住居の確保が課題となっています。そこで、平成31年2月に、県内外の国際学生寮の整備事例をまとめ、県内高等教育機関で共有しました。

さらに、静岡県立大学の教職員住宅を改修し、留学生と日本人学生の混住型モデル寮をつくりました。

<運営概要> ※令和4年4月から入寮開始	
愛 称	富学寮（ふがくりょう） ※学内公募による
入寮定員	12人
居住形態	日本人学生と外国人留学生の混住型
入寮資格	県大、県大大学院、短大の正規生、外国人留学生 ※交換留学生優先
入寮期間	1年
寮内構成	各ユニット（個室4室）は原則、同性の日本人2人及び留学生2人
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レジデントアシスタント（RA） <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理人の代わりに、入寮者の生活支援及び寮内外の交流促進に携わる学生1人を配置し、寮生に対する共同生活上の指導、助言及び支援、寮内外の交流イベントの企画・運営、緊急時及び災害時の初期対応等を行う。</li> </ul> </li> <li>○ユニットリーダー <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニットごとにリーダー（3人）を設け、レジデント・アシスタントの活動をサポート</li> </ul> </li> </ul>

学生寮は、学内公募により「富学寮」と命名され、令和4年4月から入寮が開始されました。

日本人学生と外国人留学生の計12人を定員とし、日常生活から国際交流を行う場としています。

管理人の代わりに、入寮者の生活支援や寮内外交流促進に携わるレジデントアシスタントを配置し、寮生に対する共同生活上の指導や助言、交流イベントの企画・運営、緊急時及び災害時の初期対応等を行います。

<入居者の状況>

入寮者	人数	備考
海外協定校からの 交換留学生	6人	R4 前期 トルコ1人、フィリピン1人、ロシア1人 R4 後期 トルコ5人
国費留学生		R4 後期 バングラデシュ1人
正規生	5人	日本人4名、マレーシア1人
レジデントアシスタント (RA)	1人	ユニット内に居住



外 観

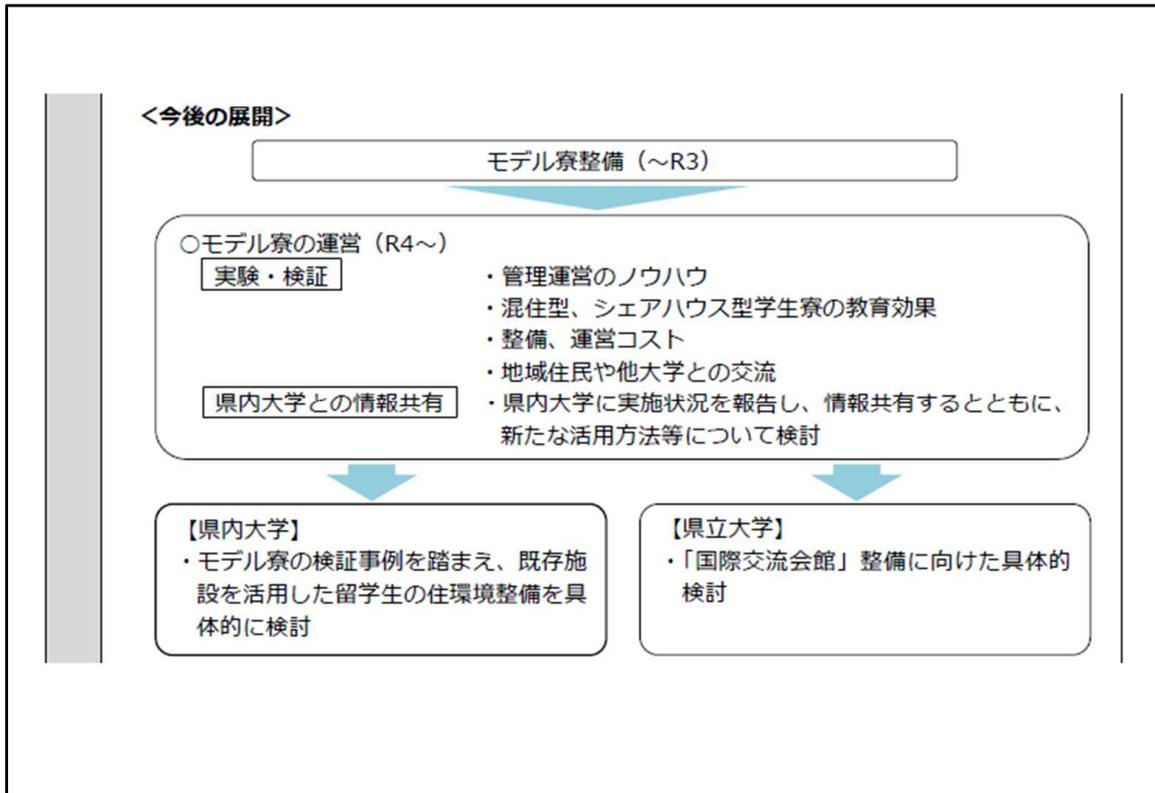


個 室



交流スペース  
(奥はアイランドキッチン)

学生寮には現在、海外協定校等からの留学生や日本人学生8人、レジデントアシスタント1人の計9人が入居しており、今年度後半には、12室の居室全てに入居が完了する見込みです。



今後、管理運営のノウハウや教育効果を検証し、県内大学と情報を共有することで、新たな活用方法について検討していくとともに、県内大学においては、既存施設を活用した留学生の住環境整備などを具体的に検討していきます。

**視点3** 児童・生徒等に対する国際感覚の涵養

取組名	アフターコロナに向けた海外との交流促進	担当課名	大学課、高校教育課
目的 (何のために)	異文化に触れ、外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた人材を育成するため、高等学校の海外修学旅行等を促進するとともに、県内大学における海外高等教育機関との交流や短期留学生交流を推進します。		

続いて、21ページを御覧ください。  
「視点3」についてです。

アフターコロナに向けた海外との交流促進のため、県内高等学校の海外修学旅行等を促進するとともに、県内大学における海外高等教育機関との交流や短期留学生交流を推進します。

#### 取組1：高等学校における国際感覚の涵養

地域外交の重点国・地域等との継続的な国際交流を推進するとともに、高等学校の海外修学旅行を促進しています。

##### (1) 国際交流の推進

オンラインを含めた学校間交流や留学の促進などにより、国際交流の機会を提供し、国際的な視野を持つ人材を育成しています。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、相互訪問は中止し、主にオンラインによる交流を実施しました。

##### ア モンゴル国ドルノゴビ県との高校生相互交流

県立高校生（生徒会活動等）の企画により、ドルノゴビ県ヘランドセルを寄贈したほか、オンライン交流を実施（1月）

##### イ 台湾との学校間交流

県立高校（8校）がオンライン交流を実施

取組の一つ目は、「高等学校における国際感覚の涵養」です。

静岡県教育委員会では、地域外交の重点国・地域等との継続的な国際交流を推進するとともに、高等学校の海外修学旅行を促進しています。

国際交流の推進については、オンラインを含めた学校間交流や留学の促進などにより、国際交流の機会を提供し、国際的な視野を持つ人材を育成しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、モンゴル、台湾との相互交流・相互訪問は中止し、主にオンラインによる交流を実施しました。

## （2）海外修学旅行の促進

外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた生徒を育成するため、高等学校の海外修学旅行を促進しており、令和元年度は、学校実施率が全国1位、生徒参加率が全国3位となっています。令和2・3年度は海外修学旅行を実施していませんが、新型コロナウイルス感染症の状況を見据え、再開を目指しています。

### ア 令和元年度海外修学旅行の実施状況（（公財）全国修学旅行研究協会調査）

		全体（主に高2生）		海外実績		学校 実施率	全国 順位	生徒 参加率	全国 順位
		校数	生徒数	校数	生徒数				
静岡県	公立	95	21,669	31	5,164	32.6%	2	23.8%	3
	私立	43	10,441	21	3,792	48.8%	9	36.3%	11
	合計	138	32,110	52	8,956	37.7%	1	27.9%	3
全国		4,922	1,055,598	898	155,535	18.2%	-	14.7%	-

### イ 行き先校数 ※複数の行き先がある学校があるため、アの校数と一致しない

公立	台湾 19、シンガポール 8、ハワイ 6、マレーシア 5、米国本土 4、オーストラリア 1、オーストリア 1、イタリア 1
私立	シンガポール 5、米国本土 4、台湾 4、ハワイ 3、カナダ 2、グアム 2、マレーシア 2、フィリピン 1、オーストラリア 1、カンボジア 1、ベトナム 1、インドネシア 1、フランス 1、オランダ 1

### ウ 期間

3泊又は4泊

また、外国の歴史・文化や習慣などを理解し、国際感覚を身につけた生徒を育成するため、高等学校の海外修学旅行を促進しています。

令和元年度は、学校実施率が全国1位、生徒参加率が全国3位となっています。

令和2・3年度は海外修学旅行を実施していませんが、新型コロナウイルス感染症の状況を見据え、再開を目指しています。

### 取組2：浙江省との短期留学生交流

本県と友好提携関係にある中国浙江省との教育交流を深め、大学・学生交流を促進するため、平成20年度から短期留学生交流を実施しています。

#### <令和4年度実施計画>

	浙江省からの受入れ	静岡県からの派遣		
募集人数	12人以内	12人以内		
留学生受入れ大学	ふじのくに地域・大学 コンソーシアムに加盟する大学	浙江工商 大学	浙江理工 大学	浙江万里 学院
留学期間	90日以内 (9～12月)	2週間 (9月)	3か月間 (10～12月)	2週間 (3月)
参加人数	12名以内	12名以内		
滞在宿舍	もくせい会館研修宿泊室	各大学が設置する寮		
学習内容	大学が留学生に受講可能科目を 提示し、留学生が科目を選択	中国語講座 中国文化、歴史講座		
受入れ大学の決定	受入れ希望大学	-	-	-

※新型コロナウイルス感染症の状況を勘案し、12月までの派遣及び受入れを中止  
令和5年3月派遣については、令和4年10月に実施可否を判断

22ページを御覧ください。

取組の二つ目、「浙江省との短期留学生交流」についてです。

本県と友好提携関係にある中国浙江省との教育交流を深め、大学・学生交流を促進するため、平成20年度から短期留学生交流を実施しています。

<交流実績>

(1) 交流人数

浙江省からの受入れ (H20~R1)	静岡県からの派遣 (H21~R 1)			
	14日	3か月	1か月	計
123人	63人	8人	1人	72人

※ R 2～3は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により受入れ・派遣とも中止

(2) 成果

浙江省からの受入れ	静岡県からの派遣
<ul style="list-style-type: none"><li>日本語関係又は日系企業への就職 26人<ul style="list-style-type: none"><li>日本語講師 7人</li><li>日本語の翻訳 2人</li><li>日系企業への就職 17人</li></ul></li><li>日本の大学又は大学院への進学 10人<ul style="list-style-type: none"><li>静岡県立大学大学院 4人</li><li>常葉大学 1人</li><li>その他大学・大学院 5人</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>中国の大学への留学 2人<ul style="list-style-type: none"><li>浙江万里学院 1人</li><li>浙江理工大学 1人</li></ul></li></ul>



これまで、浙江省から123人の留学生を受入れ、静岡県から72人の日本人学生を送り出してきました。

浙江省から受入れた留学生のうち、26人が日本語関係又は日系企業への就職し、10人が日本の大学又は大学院へ進学しました。

### 取組3：COIL型教育を活用した大学間交流形成支援

静岡県立大学は、文部科学省が実施する「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等の大学間交流形成支援～」(静岡県立大学を含む3大学による共同申請事業)に採択され、先駆的な取組を実施しています。

#### ※「COIL」とは

オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、国際的・双方向的な新しい教育実践の方法。ICTツールを活用し、海外の学生と様々な分野のプロジェクトをバーチャルに連携しながら実施することで、国内に居ながら海外大学の学生と協働して学習する。

**C**ollaborative (協働・交流) **O**nline (オンライン) **I**nternational (国際) **L**earning (学習)



23ページを御覧ください。

取組の三つ目は、「COIL型教育を活用した大学間交流の形成支援」についてです。

COILとは、オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、国際的・双方向的な新しい教育実践の方法のことです。

静岡県立大学は、上智大学、お茶の水女子大学と文部科学省の事業に共同申請し、採択され、先駆的な取組を実施しています。

<b>&lt;事業概要&gt;</b>	
(1) 事業の目的 ①学生へのグローバル教育機会の提供、②連携大学と地域社会のリソースを活用した多層的な学生交流の推進、③国際協働オンライン学習プログラムの第3国への展開を通じた途上国での教育格差是正への貢献を目標とし、オンライン教育（COIL）を利用した遠隔教育と交流事業を軸に、日本・米国の大学間連携を図る。	
(2) 参加校	
日本（申請校3校）	上智大学【代表申請大学】、お茶の水女子大学、 <b>静岡県立大学</b>
米国 （申請校の協定校を中心とした10校）	カリフォルニア大学デービス校 <sup>※</sup> 、ボストン・カレッジ、シアトル大学、ロヨラメリーマウント大学、ゴンザガ大学、ポートランド大学、ノースカロライナ大学シャーロット校、マルケット大学、サンフランシスコ大学、ヴァッサー大学 ※県立大と協定
(3) 主な実施内容	
①COILを活用したモビリティ・プログラム（交換留学・日本人学生派遣）	・留学+COIL 留学準備・フォローアップ（準備講座を3大学が共同開発、交流は各大学の米国連携大学と実施） ・3大学合同でカリフォルニア大学デービス校の短期派遣プログラムに学生を派遣
②国内循環型の留学生受入（上智大・お茶の水女子大で受け入れた留学生が3大学を移動）	インターンシップでの学修 <sup>※1</sup> （協力団体：静岡県国際経済振興会、静岡県国際交流協） ※上智大学は英語による授業、お茶の水女子大学は日本語教育を担当
③授業科目へのCOIL導入	課題発見型授業科目にCOILを導入 （R4：看護学部専門科目「卒業研究（国際看護）」「卒業研究（成人看護、老年看護、国際看護）」、大学院薬食生命科学総合学府「生体情報分子解析学特論」等）

申請校及び申請校の協定校を中心とした海外の大学と、①COILを活用した交換留学・日本人学生派遣、②他大学で受入れた留学生が3大学を移動する国内循環型の留学生受入れ、③授業科目へのCOIL導入を実施するなど、オンライン教育を利用した遠隔教育と交流事業を軸に、日本とアメリカの大学間連携を図っています。

#### 取組4：オンラインを活用した新しい国際交流

静岡文化芸術大学では、新型コロナウイルス感染症により国外への移動が制限され、現地での交流が困難な状況下において、オンラインを活用した新しいスタイルの国際交流を提案し、実施しています。

##### (1) ジャパン・ハウス サンパウロ（ブラジル）とのオンライン・インターンシップ

###### <概要>

外務省と静岡県、ブラジル静岡県人会が連携する「ブラジル青年派遣事業」に海外インターンシップとして参加。毎年テーマを決め、日本の魅力を伝えるために学生が調査、提案、発表を行う。平成30年度以降、これまでに22人の学生が参加し、11人をブラジルに派遣した。コロナ禍以降は、大学と現地を繋ぐオンラインでの発表を行った。

###### <令和3年度実績>

実施期間：令和3年9月8日～令和4年1月18日

課題テーマ：ガストロノミー（食文化）

参加学生：7人

実施内容：参加学生は、浜松市や焼津市、神奈川県で現地調査するなど、約半年間にわたり調査・研究を行い、若者の視点から捉えた日本の食文化の魅力をJHS職員らに向けて発表した。

24ページを御覧ください。

新型コロナウイルス感染症により国外への移動が制限され、現地での交流が困難な状況下において、県内大学では、オンラインを活用した新しいスタイルの国際交流を実施しています。

取組の四つ目として、静岡文化芸術大学の取組を御紹介します。

静岡文化芸術大学では、平成30年度以降、22人の学生が「ブラジル青年派遣事業」に参加しています。

毎年テーマを決め、日本の魅力を伝えるために学生が調査、提案、発表を行います。コロナ禍以降は、同学と現地をオンラインで結び、実施しています。

## (2) 産学共同国際デザインワークショップ

### <概要>

トルコ・イズミル経済大学とポーランド・ワルシャワ美術アカデミーの学生とチームを組んで、デザイン提案を行うワークショップ

### <令和3年度実績>

開催期間：令和3年9月6日～9月10日

会場：舞阪協働センター、静岡文化芸術大学構内（海外の学生とはオンラインで通信）

参加学生：静岡文化芸術大学13人、イズミル経済大学6人、ワルシャワ美術アカデミー5人 計24人

実施内容：弁天島海浜公園や浜松城にて実証実験が進められてきた「駐車場をコワーキングスペースとして活用し新たな働き方を提案するテレワークパーク」に対するPSS（Product, Service and System）をテーマとし、海外の学生とともに遠隔ツールを使いながら協働してPSSデザインを提案した。

協力・後援：浜松市、We will accounting associates(株)、

スズキ(株)、(株)東海理化、

浜松テレワークパーク実現委員会



トルコ・イズミル経済大学とポーランド・ワルシャワ美術アカデミーの学生とチームを組んでデザイン提案を行う「産学共同国際ワークショップ」は、文化政策やデザインを学ぶ同大学らしい取組です。

令和3年度は、3大学24人の学生が、遠隔ツールを使いながら、浜松市で実証実験が進められてきた「駐車場をコワーキングスペースとして活用し新たな働き方を提案するテレワークパーク」に対するPSS（Product, Service and System）デザインを提案しました。

取組についての説明は以上です。

4 主要事業

事業名	重点項目	2022 予算額(千円)
未来を切り拓く多様な人材育成推進事業費	本県の将来を担うグローバル人材及び地域を支える人材を育成・確保するため、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する大学間連携事業への助成 等	67,400
	産学官連携による海外留学促進事業	2,320
	海外留学応援フェア開催事業	1,400
	さくらサイエンスプログラム事業	3,000
	留学生デジタルプラットフォーム構築事業	15,320
	留学生支援関係事業	12,630
	浙江省との短期留学生交流事業	2,000
	グローバル人材育成関連事業費(内数)	36,670
グローバル人材育成事業費	グローバル教育の充実を回り、将来国内外で活躍できる人材を育成するため、高校生の海外留学や海外インターンシップ、教職員の海外研修等への支援	45,000
	海外体験の促進事業 (長期留学、短期留学、大学連携企画留学)	14,500
	教職員の海外研修	6,000
	グローバルハイスクール研究指定	14,000
	海外インターンシップ	9,000
	ものづくり等の世界大会参加	1,500
青少年の国際交流推進事業費	モンゴル国ドルノゴビ県との高校生相互交流事業	9,292
その他取組を含めた合計 (うち、グローバル人材育成関連事業費)		121,692 (90,962)

次に、25ページを御覧ください。

最後に主要事業についてです。  
これらの事業により施策を進めています。

施策についての説明は以上になります。